

様式3 実践事例

南大隅町立神山小学校 第1学年

【授業実践のポイント】

- ① 意見の交流・深化を充実させるために、自身の経験を語る「エピソード活動」や「心のカード」を基に交流する場を設定した。
- ② 生活への実践につなげるために、「心のカード」を教室に掲示し、いつでも授業を振り返ることができるようにした。

1 主題名

わがままばかりしていると〔A(3)節度、節制〕

(1) 教材名

かぼちゃの つる（日本文教出版「しょうがくどうとく1 いきるちから」）

(2) 本時のねらい

人の注意をよく聞き、我慢できた場面について考える活動を通して、自分も周りの人も互いに気持ちよく過ごすために、相手の気持ちを考えながら、節度を守って生活しようとする心情を育てる。

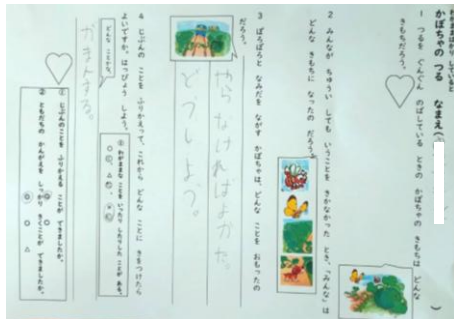
2 授業の展開

過程	主な学習活動	時間(分)	指導上の留意点
導入	1 「節度、節制」についてのアンケート結果を確認する。 2 本時のめあてをつかむ。 わがままをしないためには、どんなきもちがたいせつだろうか。	5	○ 事前アンケートを活用し、「節度・節制」についての意識を高めておく。 ○ 児童のつぶやきを大切にしながら、めあてを立てる。
展開	3 教材を読み、「かぼちゃ」の気持ちの変化を中心に話し合う。 (1) つるをぐんぐんのぼし ているときの「かぼちゃ」の気持ちを考える。 (2) ぼろぼろと涙を流して いるときの「かぼちゃ」の気持ちを考える。	20	○ わがままな言動によって周りの人が不快な気持ちになることに、役割演技を通して気付かせる。 ○ 「心のメーター」を活用することで、児童がかぼちゃの気持ち素直に表現できるようにする。
終末	エピソード活動 4 過去の自分を振り返りながら、相手のことを考えて行動することについてワークシートにまとめ、発表する。 5 大切なことを共有する。 ルールをまもり、あいてのことをかんがえるきもちがたいせつ。 6 教師の説話を聞く。	20	○ 今までの体験を想起し、自分自身を振り返り、見つめさせる。 ○ 数人の児童の振り返りを紹介し、これからの実践に向けて意欲を高めることができるようにする。 ○ 児童のつぶやきを生かして、まとめる。



〈板書〉

文字の読み書きに時間がかかる児童が在籍しているため、視覚支援教材を多く掲示するようにした。



書字の量を減らし、自分の気持ちを心のメーターで表せるようにした。

〈ワークシート〉



自分を振り返る時間を短縮するために、道徳で学んだ価値項目と各教科との関連が分かる資料を掲示した。

〈掲示資料〉

3 実践を終えて

(1) 成果

ア 「役割演技」や「心のメーター」を通して、わがままな言動が周りの人を不快な気持ちにさせることに気付かせできた。

イ 自分の気持ちを「心のメーター」で表現するなど、児童が字を書く機会を減らしたことで、字を書くことに困り感のある特別な支援を要する児童も授業に参加しやすくなった。

(2) 課題

ア 教材の読み取りに時間を要し、児童の実生活における意欲や態度の向上に十分つなげることができなかった。

イ 道徳の授業で学習した内容について、学級活動の時間に「人との関わり方」や「ルールの大切さ」に関する話合いや学習を行うことで、児童が日常生活の中で、より実践できるようにしていきたい。



特別な支援を要する児童も役割演技をすることで、気持ちを素直に表出し、言葉でも表現することができた。